

KUBOTEK

2020年3月期 決算報告

クボテック株式会社

概要

- ◎ 大手フラットパネルディスプレイメーカーなどの設備投資は低調で、主力の検査機システム事業は厳しい受注環境が続いております。
こうした状況から、当社グループは、同事業が特定の市場や顧客の設備投資動向、受注に依存する現状から、高機能フィルムや次世代パネル検査装置など、品質や採算を重視した市場、製品への販売拡大を進めております。
また、創造エンジニアリング事業をはじめそれ以外の事業において収益拡大を図り、事業構造の改革にも努力を重ねております。
- ◎ 当期は、売上は前期から約15%増収となりましたが、損益はまだ黒字化するには至っておりません。
新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、当面厳しい受注環境が続くものと予想され、当社グループは売上確保に向けた受注努力と経費削減に取り組むとともに、新製品の開発や新規事業の立上げを加速し、収益力向上に不退転の決意で臨む所存です。

経営成績

連結

(単位:百万円)

	当期 (2020年3月期)	前期 (2019年3月期)	来期予想 (2021年3月期)
売上高	1,881	1,637	1,100
営業利益	△ 28 (△1.5%)	△ 742 (△45.4%)	△ 290 (△26.4%)
経常利益	△ 38 (△2.1%)	△ 632 (△38.6%)	△ 300 (△27.3%)
当期純利益	△ 101 (△5.4%)	102 (6.3%)	△ 310 (△28.2%)

◎当期は、主力の画像処理外観検査装置が前半は国内向けなどで伸長したものの、年度後半は受注が確保できず、十分な収益を計上することが出来ませんでした。

◎損益は、採算を重視した営業活動や製品構成、前期から実施しております業務効率の改善、固定費削減効果を反映し収益性は改善しましたが、事業再構築に向けた現段階では収益は計画以上には伸びず、経常損益は38百万円の赤字となりました。また、新型コロナウイルス感染拡大から、来期業績への影響を考慮し固定資産の減損処理約55百万円を特別損失に計上しました。

◎来期においても厳しい状況が続くものと想定し、これまでの事業構造改革を推進し、収益性の改善に努める方針ですが、現時点において必要な売上が確保できる見通しが立たないため、誠に遺憾ながら赤字予想としております。

貸借対照表

連結

(単位:百万円)

	当期 (2020年3月期)		前期 (2019年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産				
現預金	1,875	67.0	2,260	62.8
売上債権	559	20.0	818	22.7
たな卸資産	158	5.7	226	6.3
その他	△ 6	△ 0.3	37	1.0
固定資産	213	7.6	258	7.2
資産計	2,799	100.0	3,600	100.0
流動負債	1,001	35.8	1,307	36.3
固定負債	576	20.6	966	26.8
負債計	1,578	56.4	2,273	63.1
資本金	1,951	69.7	1,951	54.2
利益剰余金	△ 677	△ 24.2	△ 576	△ 16.0
その他	△ 52	△ 1.9	△ 48	△ 1.3
純資産計	1,221	43.6	1,327	36.9
負債及び純資産計	2,799	100.0	3,600	100.0

◎総資産は、前期末に比べ、現預金や売上債権の減少等で、28億円となりました。

◎負債は、前期末に比べ、仕入債務や借入金金の減少等で、15億7千万円となりました。

◎純資産は、前期末に比べ、当期損失の計上から12億2千万円となりました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当 期 (2020年3月期)		前 期 (2019年3月期)	
	金 額	構成比(%)	金 額	構成比(%)
日 本	1,343	71.4	1,006	61.5
米 国	417	22.2	383	23.4
韓 国	119	6.4	247	15.1
計	1,881	100.0	1,637	100.0
うち海外	695	37.0	912	55.7

◎日本では、国内大手ガラスメーカー向けの画像処理外観検査装置の売上が、上期において増加するなど、前期に比べ伸長しました。

◎米国では、3次元CADソフトウェアの売上が伸び悩むなか、新製品の開発と販売に注力しました。

◎韓国では、韓国大手FPDメーカー向けの画像処理外観検査装置関連が大幅な減収となりました。

キャッシュ・フロー計算書

連結

(単位:百万円)

	当 期 (2020年3月期)	前 期 (2019年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	240	△ 23
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 171	1,284
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 445	△ 89
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 8	△ 9
V.現金及び現金同等物の増加額	△ 384	1,160
VI.現金及び現金同等物の期首残高	2,228	1,067
VII.現金及び現金同等物の期末残高	1,843	2,228

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、当期損失の計上があるものの、売上債権の減少、減価償却費の計上などから2億4千万円の収入となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、3DCADシステムの開発投資などで1億7千万円の支出となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、銀行への借入金返済によって4億4千万円の支出となりました。

受注状況

連結

(単位:百万円)

	当期 (2020年3月期)	前期 (2019年3月期)
受注高	486	860
受注残高	94	788

- ◎当期は、主力製品である画像処理外観検査装置は、客先の設備投資の減少と新型コロナウイルス感染拡大による投資計画の中止や延期の影響もあり、厳しい受注状況となりました。
- ◎来期に向けて、高機能フィルム向け検査装置など新規分野の開拓を進めておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で商談が進まず、また客先の投資計画も変更を余儀なくされている状況です。
こうした環境でも競争力のある製品開発に努め、一定の収益性のある案件の成約に全力を挙げる方針です。